

1.2 ウレタン塗膜防水の特長と用途

ウレタン塗膜防水の一般的な特長を列挙する。

- (1) ウレタン塗膜防水は液状の防水材料を塗布するだけであり、防水層を形成させるための作業手間はそれほど要さず、とくに端末部の納まりが容易かつ的確に行える。
- (2) 塗膜防水材(層)の伸び能力はかなり大きいものがあり、複合法の積極的導入によって耐下地ひび割れ性が大幅に改善されている。
- (3) 柔軟性は他防水に比較して良好であり、立上り、垂直部でも高温蓄熱によって垂れ下がる心配がない。
- (4) ウレタン塗膜防水は架台のような複雑形状部でも容易に水密性が確保でき、連続一体化した防水層が形成できる。
- (5) ウレタン塗膜防水は一般に防水層を保護する仕上塗料によって自由な着色、美装仕上げが可能であり、さらに弾性と硬度に富んだスポーツフロアとしての重歩行舗装仕上げが可能である。ペランダの床面防水に耐摩耗性、防滑性の優れた防水舗装兼用の粗面仕上材も多く用意されている。
- (6) ウレタン塗膜防水は、その性能と作業性から改修用途に多く用いられているが、中でも通気緩衝シートを用いることによってフクレを抑制することができ、押し工法の上からの改修防水として最適である。
- (7) ウレタン塗膜防水で施工した防水層は改修期を迎えても塗り重ねが可能であり、かつ、撤去廃材が少ない。
- (8) 超速硬化ウレタンは一般的な陸屋根から体育館のような特殊形状の屋根、スタジアム観覧席等でも広く使用されており、防水材吹付け直後に硬化し強靱な塗膜防水層を形成できる。
- (9) 既存露出防水層を撤去せず改修できる工法としてウレタン塗膜防水機械的固定工法が可能であり、その優位性を発揮することができる。

以上のような特長を持つウレタン塗膜防水であるが、塗膜防水であるがゆえの注意点もある。

<注意点>

- (1) 規定の防水層の厚みを確保し、ピンホールなどを防ぐために、施工管理を十分に行い、なおかつ防水下地を平滑に仕上げる必要がある。
- (2) 現場での計量と混合・攪拌によって性能を発揮する材料であるため、正確な計量と混合・攪拌を行う必要がある。
- (3) 溶剤を使用する場合は有機溶剤中毒予防法規則(厚生労働省)を遵守すること。
- (4) その他関連法規に従って材料を取り扱うこと。(巻末資料P114参照)

用途としては上記の特長を生かした改修工事が多く、既存の防水層ならびにコンクリート押し層を撤去しないで防水したいという需要に応えている。とりわけ土地空間に余裕のない都市の過密区域で